

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立安芸府中高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒736-0004 広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1
E-mail akifuchu-h@hiroshima-c.ed.jp
Website http://www.akifuchu-h.hiroshima-c.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 267 名 女子 317 名 合計 584 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「本校で学んで良かったと思える教育の提供」をミッションとし、そのミッションを追及するため、主体的な学びを促す教育の推進(基礎・基本の定着を図るとともに、それらを活用し、他者と協働して最善解を創造する能力の育成)、グローバル教育の推進(地球的課題の理解と解決に向けたグローバル・マインド及び実践的なコミュニケーション能力の育成)、地域の期待と信頼に応える教育の推進(自己指導能力及び自己管理能力の育成)の三点を柱としている。その中でも、グローバル教育の推進において、ESDの観点を取り入れ、異文化理解を深め、グローバル・マインドの育成を目標としている。

具体的には、国際科における専門科目や行事を中心としてグローバル・マインドの育成を図り、普通科生徒への波及を試みている。

① 英語紙芝居ボランティア

近隣中学校の演劇部生徒と協同し、8月6日に平和記念公園で英語紙芝居の朗読を行い、外国人参拝者に「平和」のメッセージを届けた。紙芝居の内容の把

あくも必要であるが、各自が平和について考える機会となり、当日も多くの外国人と意見を交わすことで異文化理解にもつながった。

② スピーチ・プレゼンテーションコンテスト

本校2年生が行うスピーチコンテストでは、SDGsの項目から各自がテーマを設定し、調べ、英語でスピーチを行った。また、3年生は、2年生で行ったスピーチの内容を発展させ、パワーポイントでスライドを作成し、プレゼンテーションを行った。自らの意見を発表することで、コミュニケーション能力を培うだけでなく、生徒の社会問題への関心も高まり、持続可能性についても考えることができた。

③ 広島大学大学院留学生プロジェクト・ハバフォード大学学生とのTV会議

1年生が国際理解を深めることを目的に広島大学に留学している外国人留学生と交流を行った。さまざまな国・地域の留学生と交流ができ生徒の視野も広がった。アメリカ合衆国にあるハバフォード大学の大学生と「平和」をテーマにしてTV会議システムを通して意見交換を行った。

④ 姉妹校交流事業 ENVOY

アメリカ合衆国ハワイ州にあるメリノール高校と姉妹校提携を行っており、両校での生徒の交換留学や教員の交換留学などを行い、幅広い国際的視野を教室に取り込むことを行った。本年度はメリノール高校から教員2名、生徒2名が来校され、本校からは教員1名、生徒3名の派遣を行った。



① 英語紙芝居ボランティア



② スピーチコンテスト



③ 広大大学院留学生との交流



④ 姉妹校交流 ENVOY

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

関連官公庁HPを参照。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

広島版「学びの変革」アクションプランに基づき、学校経営計画の中において、主体的な学びを促す教育の推進（基礎・基本の定着を図るとともに、それらを活用し、他者と協働して最善解を創造する能力の育成）、グローバル教育の推進（地球的課題の理解と解決に向けたグローバル・マインド及び実践的なコミュニケーション能力の育成）を掲げている。各教科でグループ学習を積極的に取り入れ、課題解決型の学習に取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

これまで本校では国際科がユネスコスクールの活動の中心を担っていたが、留学生のホームルームを普通科で受け入れたり、スピーチコンテストに普通科も参加するなど、国際科だけでなく普通科も係っていくという意識付けを行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評議員や生徒・保護者アンケート、教職員アンケートなどにより評価をしている。課題としては、生徒や保護者、教職員などに本校がユネスコスクールとして認知されていないのではないか。また、どの活動がユネスコスクールとしての活動にあたるのかがわかりにくいことなどがあげられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度のスピーチコンテストに向けて、SDGs についての説明を行い、その項目からスピーチ内容も考えさせたことから、世界で起きている社会問題への関心は高まったことが生徒アンケートからわかった。これからの学校内外での活動に活かしていければよいと考えている。

また、地域の中学生と協働して、英語紙芝居の指導や合同練習、8月6日に平和公園での実演等を3年間続けている。広島の中高生が広島から平和のメッセージを発信する機会となり、参加生徒の平和に対する意識が高まった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

広島 ESD コンソーシアムが主催している研修会に教員が参加しており、研修内容を国際部の部会において共有している。

府中町国際交流協会と交流を続けており、地域の中学生暗唱大会に本校生徒がゲストスピーカーとして参加したり、日本語スピーチコンテストに本校の交換留學生が参加したりして、国際理解をすすめている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

交流は行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

国際部に所属する教員の中にはESDを意識する教員が増えた。これまで行っていた活動の中にESDの観点を入れて活動を行った（スピーチコンテスト）。

学校評価アンケートによると「安芸府中国際科は、レシテーション、スピーチ、プレゼンテーション等を通してプレゼンテーション能力を向上させる学習活動が行われている。」という項目で生徒の肯定的回答が90%、教員の肯定的解答も90%といずれも昨年度より向上した。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

校内に新たに教育研究部が設けられ、授業改革や総合的な学習の研究・実施を担っていく。これまで国際部中心にユネスコスクールの活動を行ってきたが、これからは教育研究部と協力し、総合的な学習の中にもESDの観点を取り組めるようにしていきたいと考えている。また、今年度行った活動をより充実させていくためにも教員・生徒に向けてESDについて研修等を通して考える時間を設けていきたい。